赤い羽根共同募金
助成事業事例集

住みよい地域づくり支援事業　子育て支援事業

仙台市共同募金委員会

平成25年7月

《はじめに》

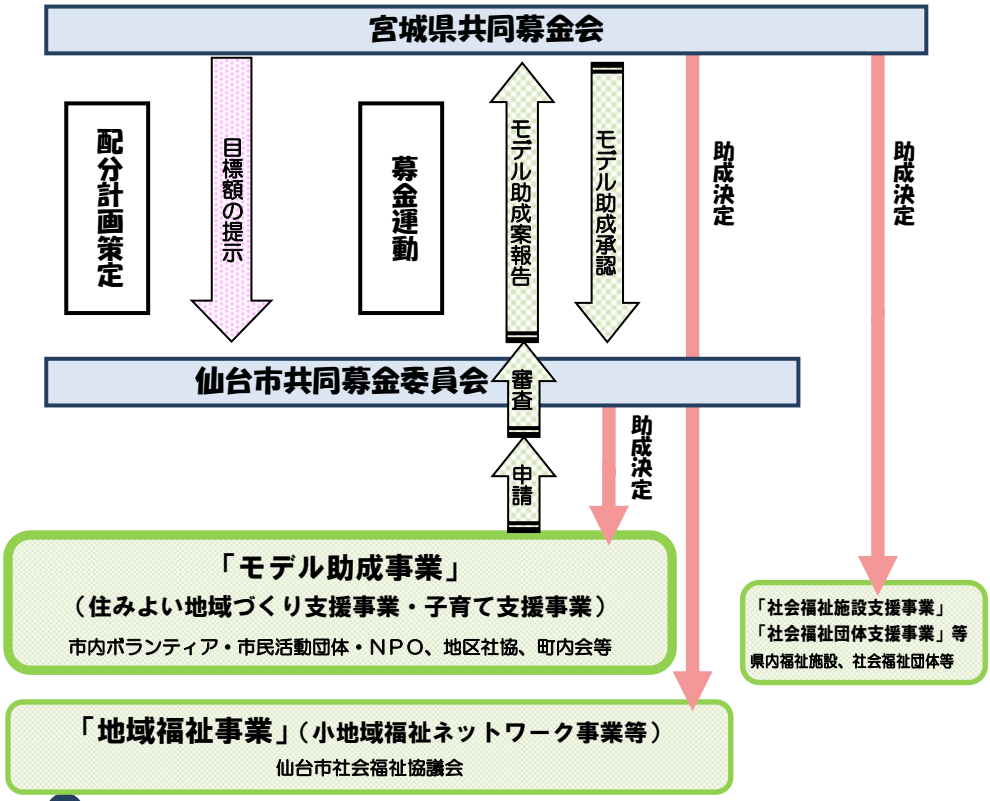
毎年 10 月 1 日～12 月３１日まで実施しております「赤い羽根共同募金運動」には、市民の皆様から多くのご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

仙台市共同募金委員会では、皆様からの募金が地域の課題解決に役立つ事業へ効果的に活用されるように、平成 19 年度から宮城県共同募金会の助成事業のうち「住みよい地域づくり支援事業」と「子育て支援事業」に関する申請受付・審査・決定を行っています。

この事例集は、皆様から寄せられた「赤い羽根共同募金」の助成を受けて、平成 24 年度に行われた事業の中から、6 つの助成事業の事例をご紹介させていただきます。いずれも地域の皆様が自ら企画、参画しているものです。

この事例集が、「福祉のまちづくり」にご尽力なされている皆様のご参考になれば幸いです。最後に、事例集作成にあたり、ご協力いただきました団体の皆様に深く感謝申し上げます。

《共同募金助成事業のしくみ》



《目　次》

住みよい地域づくり支援事業

事例１　**“笑顔あふれる”たまり場づくり**
仙台港背後地６号公園自治会(宮城野区) …… 4

事例２　**借上げ住宅入居者と地域住民とのつながりづくり**
南小泉南地区社会福祉協議会(若林区) …… 6

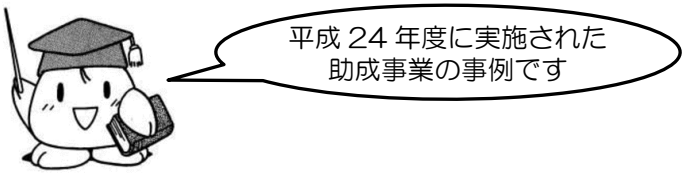
事例３　**私たちの町内は私たちで守る**
みやぎ台二丁目町内会(青葉区)…… 8

事例４　**元気だぜ！おらが仮設の夏祭り**
あすと長町仮設住宅自治会(太白区)…… 10

子育て支援事業

事例５　**楽しく“ホッ”とできる「ひととき」のために**
連坊地区社会福祉協議会(若林区)…… 12

事例６　**子育て親子を支えたい**
特定非営利活動法人子育て支援アシスト・エフワン(泉区)… 14



事例１「“笑顔あふれる”たまり場づくり」

仙台港背後地６号公園自治会

住みよい地域づくり支援事業

宮城野区にある仮設住宅の仙台港背後地６号公園自治会（以下、「自治会」という）では、仮設住宅の住民同士や仮設住宅の住民と近隣住民との交流を図るための「たまり場づくり」として、カラオケ教室、お花見会、そば打ち体験などの様々な交流イベントの開催や、気軽に集まれる集会所の環境づくりを行いました。

事業実施のきっかけ

仮設住宅に入居しているのは、一人暮らしの高齢者や子ども達など年代は様々。「東日本大震災で家をなくされた方も多くいます。仮設住宅での暮らしの中で、住民の心の復興につながるよう、気軽に集まれて、つらい気持ちを聞きあい話し合える、たまり場づくりを考えました。」と、自治会長の佐藤 修一さん。

年間の事業に活用できる共同募金の助成金にメリットを感じ、応募しました。

工夫あふれる楽しいイベントが盛りだくさん

ダーツ大会、バーベキュー、盆踊り、芋煮会、温泉探訪など、誰もが参加したくなる楽しいイベントは、自治会長を中心に自治会役員メンバーで考えました。

平日に働いている住民のことも考え、大きなイベントは休日を中心に開催。近隣住民にも声をかけた盆踊りは、約６００名もの参加がありました。

参加者の笑顔あふれるイベント

事業名	被災した住民のたまり場づくり事業
助成金額	２３６，０００円

イベント以外にも学生ボランティアによる小・中学生向けの勉強会の開催やマッサージボランティアの受け入れなども行い、様々な世代が集まれる工夫をしました。

しかし、様々なイベント等を実施するためには、ボランティア団体や地元商店との連携・協力が不可欠です。受け入れに関するコーディネートは自治会長が行いました。イベント当日までに、団体と電話でやり取りしたり、事前打合せをしたりするなど、コーディネートするのはとても大変でしたが、時間をかけて準備をしたことにより、参加者の笑顔がいつもあふれる「たまり場」となりました。

また、集会所でのイベントの開催にあたっては、イスや机を出すなど、参加者自身もお手伝い。自治会役員と参加者が一体となった運営がなされました。

気軽に集まれる集会所へ

「たまり場づくり」としては、イベントの開催だけではありません。集会所にお茶やコーヒー、健康器具、貸本等を設置し、毎日解放して、仮設住宅の住民がいつでも気軽に集まれる環境をつくりました。環境を整えたことで一日平均 28 名の利用があり、交流が深まりました。

設置した器具等は寄贈いただいたものがほとんどですが、お茶やコーヒーなどには助成金も活用されました。

自治会の今後の展開

自治会では平成 25 年度も共同募金の助成金交付が決定しています。さらに気軽に集まれる「たまり場づくり」を目指し、アイディアあふれる楽しいイベントをほぼ毎日開催する予定です。

事例２「仮設住宅入居者と地域住民とのつながりづくり」

南小泉南地区社会福祉協議会（若林区）

住みよい地域づくり支援事業

若林区の南小泉南地区社会福祉協議会（以下、「南小泉南地区社協」という）では、助成金を活用して、東日本大震災後、地区内にあるJR南小泉アパート仮設住宅自治会（以下、「自治会」という）婦人部主催の「サロンなでしこ」（月１回）の開催支援と、「地域ふれあい交流会」（年２回）の開催を行いました。

事業実施のきっかけ

ＪＲアパートが仮設住宅になるとともに、民間賃貸借上げ住宅に多くの方が入居してきました。

様々なボランティア団体による仮設住宅等への支援もある中、「地元として何らかの支援ができれば」との思いから、南小泉南地区社協では、自治会婦人部の「お茶のみサロンをしたい」という希望をもとに具体的な支援方法を考え、タイミングよく始まった共同募金の助成金に応募をしました。

入居者同士のつながりづくりとしてのサロンを開催支援

「サロンなでしこ」は、自治会婦人部がスタッフとなり、プログラムの企画や当日の運営を実施。参加者は主にJRアパート入居者で毎回２０名程度。自治会集会所を会場とし、軽体操やゲーム、お茶のみをしたり、地域のNPOの美味しいお弁当を食べたりしました。サロンは参加者の笑顔あふれる楽しいおしゃべりの場、そして入居者同士のつながりを深める場となりました。

南小泉南地区社協では、自治会婦人部の担当者と２～３か月に１回程度の打合せをしながら、サロン開催費用の支援などを行いました。

事業名	借上げ住宅入居者と近隣住民との交流事業
助成金額	２３６，０００円

地域住民との交流会を開催

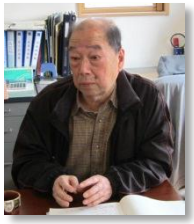
「地域ふれあい交流会」は、南小泉南地区社協の役員がスタッフとなり、地区内の交流を深めるために、JR アパート入居者のみならず、地区内の民間賃貸借上げ住宅入居者や近隣住民にも参加を呼びかけました。1 回目は屋外、2回目は地区内のコミュニティセンターで開催。2 回目の参加者は 50 名程度で、マジックショーなどの楽しい企画が盛りだくさんでした。

入居者と地域住民のつながりづくり

交流会開催前、地域住民は、震災により心に深い傷を負っている方が多い入居者に対して、「どのように接すればよいのか」などの戸惑いがありました。一方、入居者は地域性や生活パターンも異なる場所での暮らしに不安などを抱えていました。

南小泉南地区社協では、誰もが楽しめる内容を企画したり、電話でも参加を呼びかけたりと、様々な工夫を実践。参加者からも「楽しく交流できました」との声が多く寄せられました。そして、交流会という楽しい場で実際に「顔を合わせてお話をする」ことで、近隣住民と入居者がお互いを理解する第一歩にもつながりました。

地区社協の今後の活動展開



「事業実施には、企画や周知、当日の運営など多くの大変さもありましたが、自治会や若林区社協等と連携して実施することができました。地域のつなぎ役である地区社協として、担い手育成にも力を入れながら今後も活動を展開していきたいと思っています。」と、南小泉南地区社協副会長の庄子 繁さん。

南小泉南地区社協では、今後も JR アパートや民間賃貸借上げ住宅入居者への支援として、これからも交流会の開催などを検討しています。

事例３「私たちの町内は私たちで守る」

みやぎ台二丁目町内会（青葉区）

住みよい地域づくり支援事業

青葉区みやぎ台二丁目町内会では、東日本大震災を体験した私たちが、これからの世代を担う子や孫に今回の震災を語り継ぐ記録として、また、万一の大規模災害や非常時に「わが身を守る」ための基本的な行動マニュアルとして、その時何を感じ、何ができたか、どのような教訓を得て、何を反省したのかを震災後に取ったアンケート調査をもとに町内会の防災や減災対応を構築する資料として、『自主防災便利教本』を作成しました。

わが身を守る！
『自主防災便利教本』

事業実施のきっかけ

東日本大震災時、みやぎ台二丁目町内会では指定避難所である大沢小学校へ避難しようとしましたが、体育館は支柱が傾き、窓ガラスが割れたりして使用できなかったため、やむなくみやぎ台団地の集会所で２週間程の避難所運営を行いました。しかし、町内会役員が避難所運営に一生懸命になってしまったため、「避難所へ行くことができなかった在宅被災者がなおざりになった。」という思いが住民に湧いてしまいその結果、事後調査として町内会員にアンケートを取ったところ、「町内会は何もしてくれなかった。」など緊急時の情報収集と広報、そして安否確認の基本が徹底されていないことに関しての回答が多くみられました。

この反省をもとに「町内会のルール作りをしなければならない」という喫緊の課題が判明し、町内会役員と町内会員有志の 11 名による「自主防災マニュアル作成委員会」が立ち上がりました。

事業名	みやぎ台二丁目「地域防火・防犯・防災事業活動」事業
助成金額	２３６，０００円

自主防災マニュアル作成委員会始動

自主防災マニュアル作成委員会は、平成 24 年 4 月からスタートしました。7 回の協議と中間・完成報告会を行い『自主防災便利教本』とその掲示用概要版を作成しました。多くの住民から「分かりやすい。」「いざという時に役立たせたい。」と概ね好評です。

また、防災訓練の他に町内清掃時を利用して避難者カードの提出訓練も計画しています。「災害時の基本として『自助』『共助』『公助』がありますが、今回のマニュアル作成にあたり『自助』『共助』の間に『近助』を取り入れました。向こう三軒両隣の声掛けから、お互い様の助け合い支援へと繋がる大切さを実感しました。」と佐藤　一夫会長。

近隣の町内会や関係機関に今回のアンケート調査報告書を提供したことで地域の防災・減災に向けた取り組みの基本資料として大いに役立っています。

話し合いを重ねて作成

地域連携を広げる今後の活動展開

近隣町内会や市民センターの防災講座でも、アンケート調査報告書をもとに講演を行っている佐藤会長。地域の防災リーダー育成にも日々取り組んでいるそうです。

町内への報告会も開催

平成 25 年度からは、みやぎ台だけではなく大沢地区として、11 町内会共通の避難所マニュアルを作成する検討委員会がスタートしています。市民センターや各集会所を活用する避難所マニュアル作りを検討中です。

事例４「元気だぜ！おらが仮設の夏祭り」

あすと長町仮設住宅自治会（太白区）

住みよい地域づくり支援事業

太白区のあすと長町仮設住宅は、世帯数が仙台市内の仮設住宅の中で一番多く、宮城県内、岩手県、福島県などの様々な地域からの被災者が入居しています。あすと長町仮設住宅自治会（以下、「自治会」という）では、住民同士の交流を図ることにより信頼関係を深め、仮設住宅全体が明るく元気になろうという思いや、その姿を支援いただいたたくさんの団体に見ていただきたいという思いから、「元気だぜ！おらが仮設の夏祭り」を開催。約 650 名もの来場者がありました。

事業実施のきっかけ

あすと長町仮設住宅の住民は、家が流失された方、全壊された方、半壊された方など様々。入居当初は、隣同士どのような家族が住んでいるかもわからず、声を掛け合う習慣もできていない状況でした。多くの NPO やボランティア団体が集会所等でイベントを開催してくれましたが、住民は参加するだけの受け身となりがちでした。

夏祭り当日は大盛況♪

自治会では、住民が同じ目標に向かい、自ら考えて企画したイベントを実行してこそ、真の住民同士の交流が生まれるのではないかと考え、「夏祭り」を企画。実行委員会を立ち上げ、住民自らの手で夏祭りを開催しました。

夏祭り実行委員会始動

実行委員会は自治会役員全員で結成し、毎週土曜日に企画会議を行いました。大きなイベント運営の経験者がいなかったため、準備は試行錯誤の連続。出演団体との調整や当日の進行など、手探りの中、実

事業名	あすと長町仮設住宅住民 自主共同作業 夏祭りづくり事業
助成金額	２３６，０００円

行委員メンバーが役割分担して進めました。

支援をいただいていたＮＰＯや地元の町内会、学校、警察署など、日ごろの支援に対して感謝を込めてお礼がしたいという思いから招待状をお送りし、「当日は多くの皆さんに自分たちでつくりあげた夏祭りへご来場いただき、『明るく、元気な姿、復興に向けた姿』を見ていただくことができました。」と自治会長の飯塚 正広さんは話されました。

盛大に開催された夏祭り

夏祭り当日は仮設住宅敷地内を会場に、午後２時から打ち水を行いスタート。出演団体による音楽演奏、フラダンス、太鼓演奏、住民のクラブ活動による陶芸品の販売や、自治会の女性メンバーによる玉こんにゃくの販売など企画は盛りだくさんで、午後９時まで長時間のイベントとなりました。その中でも、さとう宗幸さん達の「みやぎびっきの会」によるスペシャルイベントでは、約 350 名の方が来場し大盛況。夜には竹灯篭のろうそくの幻想的な灯かりの中、太鼓の音が祭りの雰囲気を一層盛り上げ、約 150 名が輪になって盆踊りを行い、夏祭りは大好評に終了しました。

共同募金の助成金は、ステージ機材の賃借料や、招待状を送付するための費用、活動者の保険料等にあてられました。

自治会の今後の展開

自治会主催の夏祭りをとおし、役員等が各自の役割を全うし、自治会体制の強化が図れました。夏祭り後は、自治会婦人部の設置や手芸・編み物・陶芸等クラブ活動の自発的な活動の活性化にもつながっています。

平成 25 年度には第２回目の夏祭りの開催を予定。１回目の経験を活かし、広報や駐車場の管理などの反省点を改善し、住民のさらなる復興の姿を見せられるよう、開催に向けての準備が進められています。

事例５「楽しく“ホッ”とできる『ひととき』のために」

連坊地区社会福祉協議会（若林区）

子育て支援事業

若林区の連坊地区民生委員・児童委員協議会及び地区社会福祉協議会（以下、「連坊地区民児協」という）では、子育て中の親子を支援する場として平成 15 年 11 月に連坊地区「育児サロン」を立ち上げ、毎月第３金曜日の午前中、連坊コミュニティセンターを主な会場に０～４歳の乳幼児とその親を対象として継続的にサロンを開催しています。

事業実施のきっかけ

平成 15 年頃、市内でサロン活動に取り組む事例が聞かれるようになり、連坊地区民児協でも地域で必要とされている活動があるのではないか話し合いを行いました。その結果、地区民児協メンバーの子育て経験を活かし、子育て中の親子の支援として、気軽に自由に参加でき、おしゃべりやちょっとした悩み事を相談できる居場所づくりをすることになりました。子育ての不安を少しでも軽減することを目的に、毎月１回「育児サロン」として開催しています。

運営にあたり、共同募金を活用して、子ども達に人気のある電車と動物の模様のスタッフ用エプロンや、防寒用のホットカーペットを購入。スタッフの気持ちを一つにするとともに、より良い環境で活動ができるようになりました。

みんなで楽しく、気遣いをもって運営

サロンは、主任児童委員を中心にした民生委員 10 名ぐらいのスタッフで運営しています。保育士の資格を持つボランティアの協力も得て、子育て中の親のちょっとした相談にも対応しています。活動に協

事業名	連坊地区「育児サロン」運営活動
助成金額	６６，０００円

力してくれるボランティアの存在は、大変心強い支援となっています。広報は市政だよりにも掲載していますが、口コミや参加した方がお友達を連れてくることも多く、参加者は１回平均 15 組くらいです。０～2 歳までの子どもの参加が多くなっていますが、３～４歳の大きい子どもまで対応することも大切になっています。

スタッフは、楽しい雰囲気を作りながら、さらに参加者一人ひとりに気配り、目配りをし、場づくりを大切にしています。サロン開始前には、床清掃やおもちゃを消毒したり、テーブルの角に保護材を貼ったりし、安全確保の細かい対応もしています。

皆が楽しめるプログラム

子育てについてアドバイス

始まりの歌、大脳への刺激にもなる手遊び、紙芝居、季節のイベントや誕生会など、プログラムは盛りだくさん。その他にも、子育て中の親の感情表現、声の出し方、顔の表情などについてのアドバイスをすることもあり、サロンは勉強会にもなっていました。

参加者からは「新しい遊びを覚えられ子どもがのびのびできています。スタッフの方がやさしくて安心です。」「生後６か月でまだ早いと思いましたが、読み聞かせをサロンで体験させたら興味を持ってくれ良い機会となりました。」などの感想が聞かれました。

今後の展開

「東日本大震災後、被災地から避難されてきた方もおり、慣れない土地での子育てに戸惑う親子も含めて、ホッとできる時間と居場所を提供し続けたいです。活動資金の確保などの課題はありますが、地域で安心して子育てできるよう、孤立の防止や不安感の解消に向けて頑張りたいです。」とスタッフの皆さんはお話しくださいました。

事例６「子育て親子を支えたい」

特定非営利活動法人 子育て支援 アシスト・エフワン（泉区）

子育て支援事業

特定非営利活動法人子育て支援アシスト・エフワン（以下、「アシスト・エフワン」という）は、子育てに関する幅広い支援（病児・病後児預かり、出産・一人親・家事のサポート）を行っています。東日本大震災の影響で、変則的な勤務になったり、急な出張が入ったりと、育児や子どもと過ごす時間がとれない家庭の子育て支援を行っています。

事業実施のきっかけ

アシスト・エフワンでは、夜遅くまで勤務しなければならない親に代わり、保育園のお迎えや勤務を終え夜遅く帰宅するまでの預かりなどの支援をしています。東日本大震災以降、共働きのご夫婦の勤務形態が単身赴任や長時間勤務など多忙で変則的になり、長時間あるいは数日にわたる子どもの預かりを必要としている家庭からの依頼が多くなってきました。この様な状況に対応するため団体の活動を強化しようと共同募金の助成金を活用し、支援を必要とする人に活動を知ってもらうためのホームページの開設やチラシの作成、スタッフ向けのレベルアップ教室の開催などをしました。

多様な子育て支援

平成23年１月にサークルとして活動を始め、平成24年４月にNPO法人となり支援活動の場を広げています。その活動の中で様々な支援が必要とされていることが見えてきました。例えば出産支援がその一つです。夫の単身赴任や核家族であるがゆえに身内の協力が得られず、出産前後の支援を必要とする家庭には、病院の付添いや家事の代行、

事業名	震災による変則勤務の家庭の子育て支援事業
助成金額	２３６，０００円

役員メンバーで打合せ

赤ちゃんの沐浴指導等のサポートを行います。活動メンバー20 名は育児経験豊富なスタッフ、保育士等で構成されており、アドバイザーの小児科医も含め、対応にあたっています。時には相談にのることで親の不安をやわらげ子どもに安心感を与えることができます。これまでに６人の赤ちゃん誕生を支援しました。また、主な活動である病児預かりは仕事を持つお母さん達を支えています。

市内小児科併設の４カ所の病児預りは満員のことも多く、急な依頼でも受け入れ体制があるアシスト・エフワンに依頼が入ります。「出勤前から帰宅時間までの預かりだと利用者にとって料金面でかなり負担になってしまうこともありますが、『おかげで安心して仕事に集中できました』と感謝されることも多いです。」と代表の伊藤美代子さんは、支援の手ごたえを感じています。それと同時に、病児・病後児預かりをする団体や施設の増加の必要性も感じているそうです。

また、震災後、精神的に不安定となっている親の増加などにも対応できるよう、活動スタッフのレベルアップ教室も開催。研修内容は、スタッフの報告書から利用者のニーズを拾い、役員で話し合って決めました。

今後の展開と課題

レベルアップ教室

時間外預かりなどイレギュラーで多様なニーズに出来る限り対応していくためには、スタッフの増員が不可欠です。事業継続のための資金繰りなど、財政面での課題は避けられません。しかし、支援を必要とする子育て親子の生活自立をサポートし続けることで、この様な活動に社会の評価や関心が高まることも目指しています。

代表の伊藤さんは今後、子育て中の親向けの研修や親子の繋がりを強める研修を企画していきたいと語ってくださいました。

「赤い羽根共同募金運動」へのあたたかいご協力
いつもありがとうございます

《平成 24 年度事業助成団体一覧》 ※順不同。(　　)内は主な事業内容又は分野及び助成決定額。

住みよい地域づくり支援事業　　78 団体　合計 15, 959, 000 円

雷神中町内会	(防災/189 千円)	高砂地区第二民生委員児童委員協議会	(交流/236 千円)	青山二丁目町内会	(防災/208 千円)
折立地区防災事業対策連絡会	(防災/236 千円)	七福町内会	(防災/76 千円)	西台畑町内会	(防災/236 千円)
心のネットワークみやぎ	(障がい者支援/236 千円)	鶴巻一丁目東公園仮設住宅自治会	(被災者交流/236 千円)	大谷地親和会	(防災/206 千円)
三条町内会	(防災/112 千円)	宮城野防犯協会	(防犯/189 千円)	仙台市ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ研究会	(研修/236 千円)
杉山むつみ町内会	(防災/236 千円)	南小泉南地区社会福祉協議会	(被災者支援/236 千円)	下前田前沖町内会	(防災/236 千円)
NPO 法人ﾌﾗﾜｰｾﾗﾋﾞｰ研究会仙台地区	(被災者支援/236 千円)	鈴町東二丁目公園仮設住宅自治会	(被災者交流/236 千円)	鹿野三丁目町内会	(防災/236 千円)
国見五丁目町内会	(防災/236 千円)	六郷地区社会福祉協議会	(被災者支援/236 千円)	茂庭台一丁目町内会	(防災/150 千円)
台原地区社会福祉協議会	(防災/209 千円)	上飯田西町内会	(防災/236 千円)	柳生北町内会	(防災/236 千円)
あ♪のねの会	(子育て/227 千円)	南材地区町内会連合会	(防災/156 千円)	羽黒台老人クラブ白寿会	(交流/153 千円)
向田町内会	(防災/236 千円)	上飯田中央町内会	(防災/232 千円)	仙台南ニュータウン町内会	(防災/175 千円)
みやぎ台二丁目町内会	(防災/236 千円)	霞の目町内会	(被災者支援/236 千円)	八木山連合町内会	(防災/145 千円)
落合西町内会	(防災/102 千円)	神屋敷町内会	(防災/187 千円)	明石南地区社会福祉協議会	(交流/236 千円)
中野栄学区町内会協議会	(防災/236 千円)	遠見塚町内会	(防災/236 千円)	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ泉区連絡会	(被災者支援/82 千円)
仙台港背後地６号公園自治会	(被災者交流/236 千円)	今泉町内会	(防災/236 千円)	永和台地区社会福祉協議会	(防災/95 千円)
高砂地区社会福祉協議会	(被災者支援/236 千円)	沖野やよい町内会	(防災/217 千円)	明石南１丁目町内会	(防災/236 千円)
高砂一丁目公園仮設住宅会	(被災者交流/236 千円)	河原町古城町内会	(防災/236 千円)	高森一丁目町内会	(防災/145 千円)
堀切町内会	(防災/145 千円)	仙台若林子ども劇場	(被災者支援/198 千円)	高森二丁目自治会	(防災/145 千円)
鶴ヶ谷地区社会福祉協議会	(被災者支援/236 千円)	あすと長町仮設住宅自治会	(被災者交流/236 千円)	将監四丁目町内会	(まちづくり/236 千円)
つるがや元気会	(まちづくり/236 千円)	人来田学区社会福祉協議会	(被災者支援/129 千円)	泉中央第一町内会	(防災/180 千円)
鶴ヶ谷南町内会	(被災者支援/235 千円)	ほっとネットｉｎ東中田	(情報発信/230 千円)	北中山一丁目町内会	(防災/236 千円)
栄三丁目町内会	(防災/225 千円)	横森親和町内会	(被災者支援/236 千円)	高森三丁目町内会	(防災/145 千円)
東仙台地区社会福祉協議会	(まちづくり/236 千円)	八木山八光台町内会	(防災/189 千円)	ﾊｰﾄﾌﾙ松陵地区社会福祉協議会	(交流/145 千円)
燕沢地区社会福祉協議会	(防災/145 千円)	郡山矢来町内会	(防災/236 千円)	仙台市ラジオ体操連盟	(被災者支援/236 千円)
燕沢おたっしゃくらぶ	(交流/108 千円)	茂庭台五丁目町内会	(防災/236 千円)	南光台第八町内会	(被災者支援/236 千円)
自由ヶ丘町内会	(被災者支援/236 千円)	下前田上町内会	(防災/236 千円)	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻｰｸﾙ　こだま会	(交流/170 千円)
みやぎ手話工房フロム	(障がい者支援/236 千円)	ニュー長町サンハイツ町内会	(防災/236 千円)	将監南町内会	(防災/167 千円)

子育て支援事業　　28 団体　合計 5, 298, 000 円

西公園プレパークの会	(イベント/236 千円)	愛子つぼみ保育園	(備品整備/236 千円)	ちびっこひろば保育園	(備品整備/233 千円)
みやぎの子育てあおば	(子育てｻﾛﾝ/113 千円)	NPO 法人おひさまキッズ	(被災者支援/236 千円)	保育園ミルクハウス岩切園	(備品整備/204 千円)
おひさま原っぱ保育園	(備品整備/236 千円)	ハニー保育園	(備品整備/236 千円)	生出学区社会福祉協議会	(子育てｻﾛﾝ/236 千円)
ぷらむ保育園	(備品整備/179 千円)	ブルーベリーズ保育園	(備品整備/236 千円)	おおぞら保育園	(備品整備/207 千円)
キッズガーデングランママ	(備品整備/236 千円)	さかえ保育園	(備品整備/204 千円)	NPO 法人せんだい社の子ども劇場	(電話相談/236 千円)
こどもの家エミール	(備品整備/67 千円)	ママほっと	(被災者支援/205 千円)	NPO 法人子育て支援ｱｼｽﾄ･ｴﾌﾜﾝ	(被災者支援/236 千円)
Ｋｉｄ’ｓ　Ｈｏｕｓｅ	(備品整備/90 千円)	ママのお茶時間	(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ/236 千円)	こどもの国森のブーさん保育園	(備品整備/91 千円)
風の子保育園	(備品整備/161 千円)	連坊地区社会福祉協議会	(子育てｻﾛﾝ/66 千円)	ミッキー保育園　八乙女園	(備品整備/236 千円)
NPO 法人朝市センター保育園	(備品整備/236 千円)	空飛ぶくぢら共同保育所	(備品整備/26 千円)		
大沢地区社会福祉協議会	(子育てｻﾛﾝ/236 千円)	小野寺保育室	(備品整備/148 千円)		

平成 25 年７月発行
仙台市共同募金委員会
〒980-0022　仙台市青葉区五橋２丁目 12-2 仙台市福祉プラザ６階（仙台市社会福祉協議会内）
電話：022－223－2026　　FAX：022－262－1948